

(様式1)

令和4年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立中川小学校
校長名	中嶋 保徳

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・国語は全観点で、全学年、全国平均正答率を上回っている。特に「知識・技能」は目標値を大きく上回っており、授業や家庭学習での繰り返し学習が、基礎の定着につながっている。・社会は、6年の「知識・技能」が全国平均より2.8ポイント下回っているが、他は、全観点で、全学年、全国平均正答率を上回っている。・算数は全観点で、全学年、全国平均正答率を上回っている	<ul style="list-style-type: none">・理科は、4年と5年は全観点で全国平均正答率を上回っている。しかし、6年生の「主体的に学習に取り組む態度」は、全国平均より5ポイント下回っており、児童が主体的に学習に取り組めるような授業の工夫が課題である。

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・他者からの評価に関する設問への答えは、全国平均より高い。・成功体験と自信に関する設問への答えも、全国平均より高い。・規範意識(学級の規範意識)は、6年生以外は各学年全国の平均値を上回っている。	<ul style="list-style-type: none">・対話や話し合いへの意識は、学年ごとのスコアに差が出ている。発信力と共に、どの学年でも、今後力を付け、自信をもたせることが課題である・学習習慣が昨年度より全体的にスコアが下がっているため、学びに向かう自主性を育てることが課題である。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題															
<table border="1"><thead><tr><th></th><th>小3</th><th>小4</th><th>小5</th><th>小6</th></tr></thead><tbody><tr><td>平均正答率</td><td>80%</td><td>74%</td><td>61%</td><td>73%</td></tr><tr><td>満点割合</td><td>4%</td><td>5%</td><td>3%</td><td>13%</td></tr></tbody></table> <p>東京ベーシックドリル「診断シート」令和4年5月実施</p> <ul style="list-style-type: none">・前期(5月)に東京ベーシックドリル算数の診断シートを3～6年について実施した。4年生以上は、4年生の「診断シート」を使用し、平均正答率及び満点の割合を算出した。		小3	小4	小5	小6	平均正答率	80%	74%	61%	73%	満点割合	4%	5%	3%	13%	<ul style="list-style-type: none">・6年生については卒業までに、4年生の学習内容の平均正答率90%になるようにし、確実に身に付けさせる。・4年から学年が上がるにつれ、正答率も上がることが望まれる。そのためには、「ミライシード」やふりかえりシートを活用し、習熟が十分でない分野について、着実に基礎基本の力を伸ばすことが課題である。・3年生が受けた診断シートは、今後の算数・数学の基礎となるものであることから、平均正答率95%を目指す。
	小3	小4	小5	小6												
平均正答率	80%	74%	61%	73%												
満点割合	4%	5%	3%	13%												

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 基礎的・基本的な学習内容の定着

- ①基礎学力の向上を目指して本校独自の校内学力調査を年2回実施する。学校独自の調査問題を作成し、基礎・基本の定着に向けた学力調査を実施し、定着度を検証していく。
- ②朝学習の時間（8：20～8：35）に、計算タイム（計算・文章問題プリント）、漢字タイム（漢字プリント）、読書タイムを毎週設定し計画的に実施する。
- ③算数習熟度別指導の充実を図る。単元ごとにレディネステストを実施し、児童の実態に応じたクラス分けを行い、習熟度別指導の充実を図る。特に、基礎の定着を十分に行う必要がある児童に対しては、10人以下の少人数のクラスとする。
- ④新しい生活様式に則った形で、理科の観察・実験を充実させる。観察・実験を通して自然の事物・現象について実感を伴った理解を重視し、知識・理解に関連付けた指導を行う。
- ⑤授業中や家庭学習において、「ふりかえりシート」やミライシードを活用している。課題を分析し、内容によっては定期的にアウトプットの機会を設けることで基礎的な知識の確実な習得に力を入れる。

(2) 思考力・判断力・表現力を高める指導の工夫

- ①校内研究を通して、教員の授業力向上を図り、「主体的・対話的な深い学び」に基づく授業改善を図る。研究主題『主体的に学習に取り組む児童の育成 ～国語科における「読むこと」の指導を通して～』を設定し、国語科を中心に各学年が授業研究を行い、教師一人一人の授業力を高め、児童の学力向上を図る。
- ②理科や社会において、資料や実験結果、事象などから自分なりの考えをもち、タブレット端末等を活用しながら意見の共有や発表をし合う機会を意図的に授業に取り込んでいく。根拠に基づいた話し合いを通して、知識をより確かなものにしながら、**思考力・判断力・表現力を高める指導を行う。**
- ③毎週の朝読書に加え、読書月間を実施し、読書の習慣を育て想像力や語彙力を豊かにする。学校図書館司書を活用し、日常的に本に触れる機会を設け、「読み取る力」を育成する。
- ⑤タブレット端末を、効果が期待できるあらゆる教育活動で活用する。個に応じた学習の推進や、学び合いまた、自分の意見を発表するアウトプットの場면을意識的に増やしていく。よりよく日々の教育活動で活用できるよう、GIGA支援員やICTリーダーによる研修を定期的に行う。

(3) 家庭学習習慣の確立

- ①毎日、一定量の家庭学習課題を出し、学習習慣を確立させる。低・中学年においては保護者にチェックをお願いし、保護者に対しても家庭学習への意識をもたせ、児童と一緒に取り組むことで家庭での学習習慣を定着させる。
- ②授業の学習内容については、宿題として単元の確認問題や「ふりかえりシート」、ミライシード等を繰り返し活用し定着を図る。宿題は、タブレット端末とノートを併用し、その内容にとって効果が高い方法を担任が考え組み合わせる。翌日には必ず内容を確認し、習熟・理解ができていない児童については、個別に指導していく。家庭学習は国語・算数を中心に計画的に行い、中・高学年では、社会・理科を含め実施する。

- ③「早寝、早起き、朝ごはん」を家庭で徹底させることで、家庭での生活習慣を整え学習に向き合う態度を育てる。

3 「令和5年度 墨田区学習状況調査」における目標

- ・国語は全学年において、全観点で、全国平均正答率より5ポイント以上高い成果を目指す。
- ・社会と算数については、学年間の差をなくし、全学年の全観点で全国平均正答率より2ポイント以上高い成果を目指す。
- ・理科を苦手とする層を20%以下にするためには「知識・技能」を底上げする必要がある。その上で、理科の全観点において全国平均正答率以上を目指す。
- ・各教科において、上位にいる児童をさらに上の層に押し上げるために、「思考・判断・表現力」を伸ばすような指導を行う。